

「聞くこと」「話すこと」の能力を高める中学校英語科指導の工夫 ～自分の考えを表現できる Oral Interaction を通して～

外国語班 氏名 角田 厚 (中学校教諭)

<研究構想図>

目指す生徒像

- ☆自信を持って、英語で自分の考えを口にすることができる!
- ☆英語が聞き取れ、相手の言っていることが分かる!

継続的な帯活動

自分の考えを表現できる
Oral Interaction

TF 問題の作成・発表・聞き取り

生徒主体の英語使用場面の設定

生徒の実態

- 英語を口にするのが苦手だ。恥ずかしい。
- 英語が聞き取れず、何を言っているか分からない。

<実践1>

○帯活動①(クリスクロス)

T : What can you say about this picture?
S1 : You must not eat here.
T : How about the next picture?
S2 : You mustn't sleep...

イラストの活用



○帯活動② (Oral Interaction)

T : This is a 24 HOUR TELEVISION's mark.
T : Do you know this mark?

S1 : Yes, I do. I saw it....

○教科書の内容理解 (TF 問題)

■ Questions
1) 授業や本文の内容と合っていれば T (True)、合っていないれば F (False) を書きなさい。
①マイア島はヨーロッパにある。(F)
②チャリティー・ウォークのスタートとゴールはサッカー場である。(T)
③You must begin the walk by 7:30 a.m.
④All the money will go to the school. (F)

生徒のワークシート

<実践2>

○帯活動①(クリスクロス)

○帯活動② (Oral Interaction)

T : Who is she?
S1 : She is Severn.
T : Where is she from?
S2 : She is from Canada.
T : That's right! Well done!
T : She made a famous speech
How old was she then?
S3 : She was twelve years old.

ICT の活用



○TF 問題の作成・発表・聞き取り

個人 → グループで共有 → 発表準備 → 学び合い → 個人の意見
書くこと → 話すこと → 話す・聞くこと → 書くこと

S1 : The Earth Summit was a small event.
S2 : Severn had many opportunities to meet and talk.
S3 : When people in Japan wear clothes, they don't have to think of China.

生徒の作成したTF 問題の例

- 継続的な帯活動や Oral Interaction を通して、生徒が自分で考えた英語を口にすることが増え、英語学習への意欲が高まった。また、授業時の指示を日本語で言い直すことなく、生徒が英語で理解し行動できる場面が増えた。
- イラストや写真 (ICT の活用) など、生徒の視覚に訴えることで、本時の学習内容の理解を高めることができた。
- 教師が予測される生徒の反応や解答、また評価基準を明確にしておくことが大切である。

成果と課題

提言

帯活動や Oral Interaction で扱う言語材料を本時の活動 (ねらい) につなげ、生徒主体の英語使用場面を継続的に設定することにより、生徒は自分の考えを表現できるようになる。